

(5) 青年の調査

この調査の意義

教育という仕事は、直接現在の経済機構やその上に立つ政治に働かせるものではなく人間の教育による迂回的改善を意図する営みであるならば人間形成という上から大きな望みをかけることのできる青年こそ教育を考える上で最も期待されてよいのではないかと考える。こういう意味から目標設定に当っては、婦人と共に、特別に青年を取りあげて更に細かな調査を行ったわけである。調査は青年会や青年団の活動の記録の検討、指導者や会員に対する面接調査の外に、特に市内一地区を区切り、質問紙による調査を行った。

調査の目的並びに対象

青年のもつ悩みや問題を見つけると共に、これを青年のありのままの生活との関係においてとらえるために別紙の質問紙を用い調査した。調査は市内大町1, 2, 3, 4町内の青年625名を対象とした。大町を選んだのは、大町自治連絡協議会が青年会活動を推進するために町内の青年の現状を明らかにするために調査に協力したいという希望があったこと、更に又この地区が足利市における青年の問題を一応包含していると思われるような地区（職業的にも経済的にも従って又それに伴う青年の意識の上からも足利市を代表している地区）と考えられたので、この地区を選んだ。

調査の期日並びに方法

昭和28年6月15日町内の自治会長並びに青年会の役員に集って貰い調査の趣旨を話し、町内の自治会長を通じ、居住する16才～30才迄の男・女青年会員に質問紙を配布し、これを回収して集計した。

調査の処理

調査の処理に当っては、戦争一敗戦一転換という現実社会の動きからの影響を性別・年齢別の差からくる人生観のずれを考えて、男女別・年齢層別に集計整理した。

16才～20才 戦争又は戦争後のどさくさを、小学生或は新制中学生として経験している。新しい教育を多少にかかわらず受けており、いろいろな問題をもっているが批判的にものごとをみることができるようになっている。

21才～25才 勤労働員の対象となり、教育的にはブランク状態にあつた片よつた形ではあつたが戦前の社会を一応経験していると共に、戦後の混乱を心理的に最も動揺し易い青年期として過した。

26才～30才 入営或は徴用で戦時中の社会を経験している。考え方はかなり落ち着いているが、経済的な安定が得られないために悩んでいる。

又記入された青年の悩みや問題はできるだけ生な言葉で表現しようとしてつとめた。特に生な言葉で整理しようとしてつとめたのは、引きつづいて行つた面接調査に際しこれを役立てたいと考えたからであつた。たゞ大町地区が殆んど農業をもっていないため農村青年の意見を把握することができないが、これは他の調査によって補なわなければならないと考えている。

※調査の結果は一応分析されて、目標設定委員会に提出され、更にここでそれぞれの立場から検討され、生活課題抽出のために役立てられた。

我々としては、できることなら、一応の分析結果と目標設定委員会におけるそれぞれの立場からの意見をもとにした検討の全容を報告したいと考えたわけであつたが紙数の関係上全体をのせることができなかった。

従つてこゝには調査項目に調査結果の一部をのせるに留め、後日機会をみて詳細の報告を行いたいと考えている。

調査項目

- 1 昨夜夕食後どんなことに過したか
- 2 こゝ一週間のうちで話しあった話 (政治 税金 同業組合 映画 ストライキ 警察 国際問題のうち)
- 3 よくきくラジオ放送の番組 (天気予報 ニュース スポーツ 音楽 私達の言葉 ニュース解説 二十の扉 なにわぶし 修養 子供の時間 その他)
- 4 主として読む新聞の名 並びにその記事
- 5 主として読む雑誌の名 並びに興味をもって読む内容
- 6 支持する政党 並びに支持する理由 (日本の現状に合っているから。立派な人が入っているから。中小商工業者の味方であるから。軍備反対だから。労働者の味方であるから。再軍備賛成であるから。皆んながいゝというから。困る人を守るから。資本家を助げるから。その他の中から)
- 7 きらいな政党 並びに嫌いな理由。
- 8 ひまなときは何をして過すか。
- 9 家庭の問題で一番悩んでいることは何か。
- 10 今の社会の問題で一番悩みに思うことは何か。
- 11 郷土(足利)の発展を図るためにはどうしたら一番よいと思うか。
- 12 現在の大人のいけないところはどんなところか。
- 13 戦後の思い出で一番強く印象に残っていることは何か。
- 14 これからの日本は復興すると思うか 思わないか。復興にとって何が一番大切だと思うか。
- 15 あなたはどんな生き方をしている人が好きであるか。
- 16 若し自由に使ってもいゝというお金を 4,5000円貰ったとすればまず何をするか。
- 17 若しあなたの望みが何でもかなえられるとしたら 何を望むか。

表1 私達の問題について (青年の与論調査) 大町1,2,3,4町内の集計

※年令層別 A...19~20 B...21~25 C...25~30

| | | 男 | | | | 女 | | | | 合計 |
|--------|------|-------|-------|-------|-----|-------|-------|-------|-----|-----|
| | | 16~20 | 21~25 | 26~30 | 計 | 16~20 | 21~25 | 26~30 | 計 | |
| 大町一町内 | 青年人員 | 53 | 43 | 47 | 143 | 43 | 49 | 15 | 107 | 250 |
| | 調査人員 | 21 | 19 | 19 | 59 | 20 | 16 | 4 | 40 | 99 |
| 二町内 | 青年人員 | 11 | 13 | 11 | 35 | 20 | 16 | 11 | 47 | 82 |
| | 調査人員 | 8 | 9 | 11 | 28 | 15 | 11 | 4 | 30 | 58 |
| 三町内 | 青年人員 | 26 | 31 | 19 | 76 | 32 | 33 | 19 | 84 | 160 |
| | 調査人員 | 18 | 21 | 12 | 51 | 21 | 24 | 8 | 53 | 104 |
| 四町内 | 青年人員 | 19 | 21 | 28 | 68 | 25 | 24 | 16 | 65 | 133 |
| | 調査人員 | 12 | 17 | 13 | 42 | 18 | 18 | 8 | 44 | 86 |
| 大町全町内計 | 青年人員 | 109 | 108 | 105 | 322 | 120 | 122 | 61 | 303 | 625 |
| | 調査人員 | 59 | 66 | 55 | 180 | 74 | 69 | 24 | 167 | 347 |

表2 昨晚夕食後どんなことに過しましたか。

| | 男 | | | | 女 | | | | 総計 |
|---------------|-------|-------|-------|-----|-------|-------|-------|-----|-----|
| | 16~20 | 21~25 | 26~30 | 計小 | 16~20 | 21~25 | 26~30 | 計小 | |
| 読書 | 15 | 9 | 6 | 30 | 12 | 9 | 3 | 24 | 54 |
| 雑誌を読むを含む | (1) | | (1) | (2) | (1) | (2) | | (3) | |
| ラジオを聞く | 7 | 9 | 5 | 21 | 11 | 6 | 3 | 20 | 41 |
| 新聞を読む | 4 | 9 | 4 | 17 | 2 | | 2 | 4 | 21 |
| 映画 | 4 | 6 | 5 | 15 | 3 | 2 | | 5 | 18 |
| 雑談 | 5 | 4 | 2 | 11 | | 5 | 3 | 8 | 19 |
| 勉強 | 1 | 1 | | 2 | 2 | 4 | | 6 | 18 |
| (市民学校を含む) | | (1) | (1) | | (4) | (3) | | (7) | (8) |
| 洋裁 | | | | | 8 | 6 | 4 | 18 | 18 |
| 夜業(残業) | 2 | 2 | 7 | 11 | | 2 | | 2 | 13 |
| 雑用(家事全般ぬいもの) | | | | | 1 | 5 | 6 | 12 | 12 |
| パチンコ | 4 | 4 | 3 | 11 | | | | | 11 |
| 散歩 | 4 | 1 | 1 | 6 | 1 | 2 | 1 | 4 | 10 |
| ねてしまった | 2 | 6 | 1 | 9 | 1 | | | 1 | 10 |
| 友人のうちを訪問 | | 2 | 2 | 4 | 3 | | | 3 | 7 |
| ぼんやり過した | | 3 | | 3 | 2 | 1 | | 3 | 6 |
| 静養(病床を含む) | 1 | | | 1 | 1 | 1 | 1 | 3 | 4 |
| あみもの(弟のセーター外) | | | | | 1 | 2 | 2 | 5 | 5 |
| 書道 | | | 1 | 1 | | | | | 1 |
| バーマかけ | | | | | | 1 | 1 | 2 | 3 |
| ローラースケート | | 1 | | 1 | | | | | 1 |
| 謡曲 | | | 1 | 1 | | | | | 1 |
| 音楽をききたい | | 1 | 1 | 2 | 3 | | | 3 | 5 |
| 麻雀 | | | 1 | 1 | | | | | 1 |
| 合計 | | | | 145 | | | | 13 | 278 |
| 無解答 | | | | 36 | | | | 34 | 70 |
| 回収された数 | 59 | 66 | 55 | 180 | 74 | 69 | 24 | 167 | 347 |

夕食後の時間をどのように過したかということによって、青年が日常その余暇をどのように過しているかを明らかにしようとしたわけであった。調査の結果は、予測通り読書、ラジオを聞く、新聞を読む、雑談をする映画をみるなどが多く、「不健全な夜遊びやパチンコなどにばかりにすごしているというような青年に対する非難は、決して青年全体に対するものでないことが明らかである。そしてこの調査だけからは多くの青年が一応まじめに問題なく過していると考えてさしつかえないように思われる。

しかし更に検討してみると即ち読書やラジオを聞くということが最高を示しているけれども、読んだり聞いたりしている内容がどうであるのか、読んだり聞いたりする心構えがどうなのか、考えてみるとそこには幾つかの問題があるように思われるのである。例えば読書についても最も多く読んでいる本は平凡、映画雑誌、婦人生活、婦人クラブ、文芸春秋などであり、その内容は小説(ロマンチックなもの探偵もの、殺人スリル・ユーモア的なもの恋愛もの)映画のストーリーの解説などである。これらは軽い娯楽慰安としてならば一応の意味はみとめられるけれども、青年が今後どうしても解決していかなければならない問題(今回の調査には経済生活の安定とそれに関連した日本経済の問題として強く現われてきている)に対しては、稍関係が浅いように思われるのである。このようなことになってきている根本的な原因として、我々は、現在の青年の逃避的な態度を指摘することができるのではないかと考える。即ち青年は自分の解決していかなければならない問題があまりにも困難なために、その問題にまともに向き合う情熱を失ってしまつて、一時の慰安に逃避してしまつていないかと考えるのである。青年のこのような傾向は次の調査項目に対する反応からも明らかにかうかうことができる。

表3 こゝ一週間のうち下のものの中で話しをしたもの

| | 男 | | | | 女 | | | | 総計 |
|---------|----|----|----|-----|----|----|----|-----|------|
| | A | B | C | 小計 | A | B | C | 小計 | |
| 映画 | 51 | 41 | 39 | 131 | 79 | 47 | 14 | 140 | 271 |
| 国際問題 | 33 | 32 | 33 | 98 | 43 | 13 | 6 | 62 | 160 |
| 政治 | 30 | 28 | 35 | 93 | 27 | 30 | 5 | 62 | 155 |
| 教育 | 14 | 17 | 15 | 46 | 42 | 27 | 11 | 80 | 126 |
| 税金 | 17 | 23 | 25 | 65 | 29 | 14 | 5 | 48 | 113 |
| パチンコ | 28 | 28 | 25 | 81 | 13 | 9 | 2 | 24 | 105 |
| ストライキ | 12 | 4 | 9 | 25 | 17 | 8 | 2 | 27 | 52 |
| 同業組合 | 12 | 7 | 9 | 28 | 8 | 3 | 3 | 14 | 42 |
| 警察 | 8 | 6 | 3 | 17 | 10 | 7 | 3 | 20 | 37 |
| 合計 | | | | 584 | | | | 477 | 1061 |
| 回収された用紙 | 59 | 66 | 55 | 180 | 74 | 69 | 24 | 167 | 347 |

こゝ一週間のうちに、それぞれの青年がどのような話をして過しているかを明らかにすることによって、青年の意識なり関心なりがどのようなところにあるかを把握し、更にそのような意識を通じて、どのような心構えをしているかを明らかにしようとしたものである。

調査の結果最も多かったのは、映画、国際問題、政治等の問題についての話であり、少ないのは、同業組合やストライキ等についての問題である。しかもここで極めて断片的なものであり、その内容は極めて浅く、又その場限りのものであった。……追加面接調査。

以上二つのことから、我々はさきあげた青年の逃避的な生活意識の強さを改めて確認させられるのである。そして又更に青年はこうした逃避的な生活態度をとっているうちに、問題解決を論理的に進める態度を失い、矛盾を矛盾と感じないように、片ちんばで断片的な物の考え方を身につけてしまっていると思われる。若し青年が「当面している貧困をどう解決していくべきなのか」の問題に、まともに立ち向って逃避しないとすれば、同業組合やストライキ等の問題等がもっと取りあげられ、話されてもよかったのではないかと考えられるわけである。このような逃避的な意識と共に逃避的な態度をとりつつそうした自己の考え方や行動を合理化しようとして生じてきている片ちんばな、そして又あいまいな考え方は他の項目（調査項目6 支持する政党並びに支持理由）などにも明瞭にあらわれている。

※紙数の都合上以下略